

Profile

出演者プロフィール (演奏順)

千川 浩治 (旅人の唄)

新都山流尺八、鈴木吟山門。より深く尺八を楽しめるよう菅原久仁義氏に指導を受けています。

君和田 健二 (与作)

1961年東京生まれです。学生三曲にて尺八を開始しました。1989年来道して美唄市、札幌市に居住しました。

木村 七郎 (本調)

五十の手習いで花園怜童氏に入門、後に菅原久仁氏の師事。本曲3曲目に挑戦です。

宮野 積山 (流露)

いつかは演奏してみたいという気持ちはありましたが、時が過ぎ忘れかけていました。今回の演奏会を機にチャレンジしてみたいと思います。

増井 黎山 (若竹の賦)

聖琳社所属。中島聖山氏に師事。師匠と共著で「尺八で歌う思い出の愛唱歌 I、II」出版。

久末 康太 (若竹の賦)

2014年4月 千歳科学技術大学尺八サークルで尺八を始める。2015年3月 卒業。聖琳社所属、中島聖山氏に師事。

丸田 正山 (若竹の賦)

千歳科学技術大学のインターシップで中島聖山氏と出会い尺八を開始。たまに録音データをユーチューブに公開。

原田 照山 (若竹の賦)

聖琳社所属。森翠山・中島聖山氏に師事。東京の尺八製作作品で3年連続金賞受賞。尺八製作工房小樽バンブー経営。

見延 鈴鳴 (遍路)

琴古流青木鈴慕直門、安立鈴王氏及び菅原久仁義氏に師事。第32回北海道三曲コンクール尺八の部奨励賞受賞。

本庄 智将 (甲乙)

都山流尺八楽を山下静山、琴古流を菅原久仁義各師に師事。転勤で移り住んだ横浜からの参加です。

山下 静山 (産安)

1982年より尺八を始める。都山流を中島聖山氏に師事。古典本曲ほかを菅原久仁義氏に師事。新都山流大師範。

設楽 和恵 (行雲)

菅原久仁義氏に師事。今夏で尺八歴6年目がスタート。

竹本 彩乃 (行雲)

2008年に札幌西高校邦楽部ににて尺八を始める。2011年に北大邦楽研究会に入会し、また同年より菅原久仁義氏に師事する。

藤田 龍之介 (行雲)

大学入学後、北大邦楽研究会に入り尺八を始める。尺八歴3年。菅原久仁義氏に師事。

生松 倫太郎 (行雲)

菅原久仁義氏に師事。1992年生まれ東京都練馬区出身。父の影響で、8歳より長唄三味線を始める。2011年大学入学と同時に北大邦楽研究会へ入会、尺八を始める。

菅原 久仁義 (行雲)

12才より都山流尺八を木賦明山氏、後に琴古流尺八を高橋涉童氏、佐藤豊童氏、上京し横山勝也氏に師事。

見澤 太基 (雁)

札幌市出身。尺八を菅原久仁義氏に師事。東京藝術大学音楽部邦楽科卒業。

門田 童山 (奥州薩滋)

1984年北海道三曲コンクール第1位<知事賞>五十嵐良山師に師事。日本尺八連盟大師範

成澤 正幸 (甲乙)

1981年より菅原久仁義に師事。菅原邦楽研究室所属。邦楽アンサンブル「11色のクレパス」のメンバーとして活動。

芳賀 浩 (鹿の遠音)

北大邦楽研究会OB。伊藤鈴鳥氏、佐藤豊童氏に師事。卒業後、菅原久仁義氏に師事。

宮本 進 (山谷)

菅原邦楽研究室所属。山形の高橋龍童氏に師事。紆余曲折を経て十数年前より菅原師に習い今日に至る。

山中 夕山 (扇)

日本尺八連盟所属。古典本曲、現代邦楽を菅原久仁義氏に師事。

藤山 夕春 (扇)

日本尺八連盟所属。山中夕山氏に師事。

加藤 游山 (扇)

日本尺八連盟所属。山中夕山氏に師事。古典本曲と現代曲を菅原久仁義に師事。

寺倉 直明 (一二三鉢返し)

長岡薫道、菅原久仁義各氏より琴古流尺八を学ぶ。第31回北海道三曲コンクール尺八の部2位。

竹々の会 website

<http://www.nantara.com/takedake/>



竹々の会
Vol.4
演奏会
2015
6/13
<SAT>
13:00 開場
13:30 開演
渡辺淳一文学館 講義室

主催 / 竹々の会実行委員会 後援 / 札幌市・札幌市教育委員会・北海道新聞社

ご挨拶

本日は、何かとご多用のなかご来場いただき誠に有難うございます。
「竹々の会」は文字どおり楽器として竹、すなわち尺八だけを使用し、流派や組織をこえて誰でも自由に参加できる会として発足しました。

今年も道内各地から多くの賛同者・協力者を得て「竹々の会 Vol.4」として開催できることとなりました。日本古来の伝統楽器である尺八がもつ魅力ある音色が一人でも多くの方に届くことを願っております。どうぞお時間の許す限りごゆるりとお聴き下さいますようお願いいたします。

第四回竹々の会実行委員会 幹事 山下 静山

1 旅人の唄 (福田蘭童作曲) 千川 迪山

さまよえる心のままに 見返りの丘を登れば 野は遙か過ぎ去りし日の影 闇にとけ行く
かくあるは人の定めか 天地(あめつち)に 星の飛ぶなり

2 本曲演歌 与 作 (七澤公典作曲 村岡実編曲) 君和田 健二

「与作」で尺八を吹いていた村岡実師が、独奏の「本曲演歌」として発表しました。村岡師の教則 VHS ビデオの総仕上げの曲として編曲され、様々な応用奏法を駆使しています。

3 本 調 (古典本曲) 木村 七郎

曲に入る前の竹調べとして演奏される古典本曲の真髓とされる。

4 流 露 (杵屋正邦作曲) 宮野 積山

昭和42年の作品。流露とは真相を示すことであり、人間の真情を一管の尺八に託して歌い上げようとしたものとの説明が記されている。

5 尺八四重奏曲 若竹の賦 (長澤勝俊作曲)
第一尺八 増井 黎山 第二尺八 久末 康太 第三尺八 丸田 正山 第四尺八 原田 照山

三本のD管(一尺八寸)、一本のA管(二尺三寸)による二章よりなる尺八四重奏曲。尺八の未来は、若竹のごとく瑞々しい柔軟性のある演奏により、無限に広がってゆくに違いない。作曲者の尺八音楽に託す夢と希望がここにある。

6 遍 路 (杵屋正邦作曲) 見延 鈴鳴

尺八特有の古典本曲の技法を現代的な音楽形式の中に取り入れたもので現代版虚無僧尺八とも云える曲である。本来は尺八二重奏曲であるが今回は独奏用に編曲されたものである。

7 甲 乙 (山本邦山作曲) 本庄 智將

ゆっくりとした部分は古典本曲の素材をテーマに、また、対照的に、早い部分は現代風で、三連音やタンギングを多用した、二面性を持つ曲です。

8 産 安 (古典本曲) 山下 静山

「産安」には、虚無僧が得た布施米を尺八の中を通してから吹き、産婦に与えて曲を吹いて聴かせると安産まちがいなしなど安産祈願のために吹く曲であるとい伝えられている。

9 尺八五重奏曲 行 雲 (牧野由多可作曲)
第一尺八 設楽 和恵 第二尺八 竹本 彩乃 第三尺八 藤田 龍之介 第四尺八 生松 倫太郎 第五尺八 菅原 久仁義

行く雲の流れに身をまかせて・・・尺八の音と共に、それは時に激しく、時に深く抒情の世界に沈潜しつつ、私の夢は一すじの光となって空の中に舞って行った。構成は三楽章形式であるが、切れずにつづけて演奏される。1980年3月作曲

10 雁 (山本邦山作曲) 見澤 太基

寒さを求めて飛んでゆく渡り鳥である雁の姿に、人生の旅といったものを感じて作った。フルートにも通ずるタンギングのようなメカニックな技巧を多用する。(作曲者記)

11 奥州薩滋 (神保政之助作曲) 門田 童山

梵語でゼロを表す「サンヤ」に山谷、佐山の字が当てられ、「陸奥」で生まれた「神保山谷」が九州に渡り、「奥州薩滋」になったと伝えられる。「サシ」とは菩薩の「慈悲」。

12 甲 乙 (山本邦山作曲) 成澤 正幸

古典本曲の要素と現代曲の要素を組み合わせた山本邦山師初期の尺八独奏曲。師らしいテクニカルな器乐的側面を強調しつつも日本の精神性をも感じさせる曲である。

13 鹿の遠音 (琴古流本曲) 芳賀 浩

琴古流全36曲中、最も世間に知られた曲であり、雌鹿と雄鹿が相恋慕して鳴き交うさまを写した曲といわれる。

14 山 谷 (古典本曲) 宮本 進

深奥な山谷に流水が悠々として去来するように、静観の境地を示している曲調が「山谷」です。山谷は奥州の伝承に始まる。ただひたすら静寂に。

15 尺八三部合奏 扇 (山本邦山作曲)
第一尺八 山中 夕山 第二尺八 藤山 夕春 第三尺八 加藤 游山

1964年作曲。雅楽風な独奏に始まり、緩急織り交ぜた五つの形式の楽章がほぼノンストップで演奏されます。原曲は部分的に五部合奏になっているので、多人数での演奏向きですが、今回は三人で演奏します。

16 一二三鉢返し (古典本曲) 寺倉 直明

琴古流古典本曲。一二三調(尺八の調子、音を確かめる為の曲)と鉢返し(托鉢の際にお布施などをいただいた返礼として吹く曲)を合体したものの。